

令和元年度宮城県地域医療構想調整会議（仙南区域）

日 時 令和元年11月13日（水）
午後5時30分から午後7時00分まで
場 所 宮城県大河原合同庁舎別館2階 第二会議室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

- (1) 地域医療構想調整会議における議論の進め方について・・・資料1
- (2) 医療需要の将来推計と医療提供体制の現状について・・・資料2
- (3) 医療機関ごとの具体的な対応方針について・・・資料3
- (4) その他の共有事項について・・・資料4
- (5) 定量的な基準について・・・資料5
- (6) 外来医療計画について・・・資料6
- (7) 具体的対応方針の再検証の要請について・・・資料7
- (8) その他

4 閉 会

< 配 付 資 料 >

-
- (資料1) 地域医療構想調整会議における議論の進め方について
 - (資料2) 医療需要の将来推計と医療提供体制の現状（仙台区域）
 - (資料3-1) 新公立病院改革プランの概要，公的医療機関等2025プランの概要
 - (資料3-2) 医療機関ごとの具体的な対応方針（公立・公的医療機関以外）
 - (資料4) その他の共有事項
 - (資料5) 定量的な基準について
 - (資料6) 外来医療計画
 - (資料7-1) 具体的対応方針の再検証の要請について
 - (資料7-2) 仙南区域の病床機能分化・連携について
 - (参考資料) 平成30年度病床機能報告結果（概要版）【病院（病棟ベース）】

**令和元年度宮城県地域医療構想調整会議
(仙南区域) 出席者名簿**

【委員】

(順不同・敬称略)

分野	No	氏名	所属	備考
医師会	1	佐藤 和宏	宮城県医師会 会長	欠席
	2	小松 和久	白石市医師会 会長	座長
	3	平井 完史	柴田郡医師会 会長	代理:齋藤 雄一 副会長
	4	高山 敦	角田市医師会 会長	
歯科医師会	5	玉野 井 修	仙南歯科医師会 会長	
薬剤師会	6	瀬戸 裕一	仙南薬剤師会 理事	
看護協会	7	曾根田 浩子	宮城県看護協会 仙南地区支部長	
病院	8	内藤 広郎	みやぎ県南中核病院 院長	
	9	大橋 洋一	公立刈田総合病院 院長	
	10	大友 正隆	丸森町国民健康保険丸森病院 院長	
	11	内山 美寧	国民健康保険川崎病院 院長	
	12	酒井 謙次	蔵王町国民健康保険蔵王病院 院長	代理:佐藤 浩明 事務長
	13	松本 純	大泉記念病院 院長	
	14	早坂 弘人	仙南病院 院長	
	15	安藤 正夫	金上病院 院長	代理:萩生田 善之 事務部長
保険者	16	曾根 正樹	全国健康保険協会宮城支部 業務部長	
	17	山崎 敏幸	宮城県国民健康保険団体連合会 常務理事	
市町村	18	庄司 昭利	白石市保健福祉部 部長	
	19	中村 方彦	角田市市民福祉部 部長	
保健所	20	西條 尚男	宮城県仙南保健所 所長	副座長

【地域医療構想アドバイザー】

氏名	所属	備考
藤 森 研 司	東北大学 大学院 医学系研究科・医学部 教授	
石 井 正	東北大学病院 総合地域医療教育支援部 教授	

【病院事業管理者】

氏名	所属	備考
伊 藤 貞 嘉	公立刈田総合病院 特別管理者	

【事務局】

氏名	所属
佐々木 真	宮城県 保健福祉部 医療政策課長
遠藤 圭	同 保健福祉部 医療政策課 医療政策専門監
日野 貴広	同 同 主幹(企画推進班長)

1. 開 会

○司会

ただいまから令和元年度宮城県地域医療構想調整会議仙南区域を開催する。

2. 挨拶

○司会

開会に当たり、県保健福祉部医療政策課長の佐々木からご挨拶を申し上げます。

○佐々木保健福祉部医療政策課長

【挨拶】

3. 議 事

○司会

本日の調整会議の座長は、白石市医師会小松会長にお願いしている。

○小松座長

それでは、次第に従い議事を進める。(1) 地域医療構想調整会議における議論の進め方について、(2) 医療需要の将来推計と医療提供体制の現状について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

【説明】

○小松座長

では、ただいまの説明について質問等があればお願いします。特にないようなので、項目(1)、(2)についてはこれで終了とする。

続いて、(3) 医療機関ごとの具体的対応方針について、(4) その他の共有事項について、(5) 定量的な基準について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

【説明】

○小松座長

では、ただいまの説明について質問等があればお願いします。

資料4の医療機能の変更と非稼働病棟について、みやぎ県南中核病院から説明をお願いします。

○内藤委員

1病棟休床している状態だが、2025年までには全病棟稼働したいと考えている。

○小松座長

医療機能の変更について、仙南病院から説明をお願いします。

○早坂委員

内容に大きな変更はなく、一般病棟と届出をしている病棟で地域包括ケアの患者を診ており、急性期から回復期へ変更するものである。

○小松座長

ほかに質問等がなければ、項目（3）、（4）、（5）についてはこれで終了とする。続いて、（6）外来医療計画について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

【説明】

○小松座長

では、ただいまの説明について質問等があればお願いします。

○高山委員

初期救急医療提供体制について、角田市は参加医療機関が30とされているが、これほどのようにカウントしたのか。

○事務局

この数字は、第7次地域医療計画を策定する際に各地域へ照会した結果である。地元の医療機関数より多いという指摘かと思うが、今後精査させていただく。

○大橋委員

医療機器の共同利用について、既に地域の開業医と連携をしている場合も、改めて計画書を提出する必要があるのか。

○事務局

患者の紹介などのやり取りについても、共同利用に含まれると国は考えている。実際には、新規購入や更新の場合において、地域の先生方と連携をするかについて伺うことになる。

○大橋委員

計画書の策定だけではなく、利用の仕方についても考えてもらいたい。例えば、患者の立場で考えると、院内であれば電話一本で予約を取れるが、院外だと、一度受診をした上で再度行かなくてはならない。そうした状況も踏まえた検討をお願いする。

○曾根委員

人口10万人当たりの訪問医療・訪問介護の実施状況が記載されているが、全国の平均と比較したデータはあるか。

また、意見だが、協会けんぽの加入者や県民が良質で効果的な医療を享受できるようにすることは、保険者として重要な使命であると認識している。これから団塊の世代が全て後期高齢者となる2025年や高齢者人口がピークとなる2040年を見据えると、在宅医療の将来需要は増加する見込みであることが資料からも分かる。こうした需要に対応していくために、医療サービスを担う人材確保や体制整備が喫緊の課題であると考えているが、各医療圏における医療提供体制の確保や訪問体制を充実させていくことは、簡単なことではないと考えている。

このため、オンライン診察や服薬指導などの情報通信技術を活用した効率的な医療サービスの提供体制を整備していく必要があると考えている。整備が行き届かない地域や病院へのアクセスが困難な方について、オンライン診療といった情報通信技術を今まで以上に活用できる道を、2040年を見据えて今の段階から探っていく必要があると考えている。

○事務局

全国との比較についてだが、外来医療計画の策定で対象としているのが県内の医療機関であることから全国との比較は行っていない。

また、今後の医療需要に対応していくための一つのツールとしてのICT活用に関する御意見については、現在国において議論されているところであり、例えば、令和2年度の概算要求では検証事業が予算項目の一つに挙げられており、県としてもそうした状況を把握しながら今後情報提供や情報収集に努めてまいりたい。

○内藤委員

この計画は、開業する医師に対して、外来医師多数区域からそれ以外の地域へ誘導したいということか。何かメリットがないと難しいと思うがどうか。

○事務局

国が誘導したいと考えた仕組みかと思うが、これだけをもって進めるのは難しいと考えている。この計画に連動した支援策は今のところ無い。

○内藤委員

例えば、外来医師多数区域以外で開業した方に5年間資金提供するとか、在宅を担ってくれる方に頭金的なサポートをするなど、何か策がないと難しいと思う。

○事務局

この仕組みに合わせたものではないが、例えば、在宅を新規に始めた先生を対象に、患者の増加に合わせた支援がある。

また、各市町においては、新規開業の先生を地元と呼ぶための施策として開業の支援を行っているところもある。

この仕組みだけでは難しい面もあるかと思うが、それぞれの施策の取組も含めて地域での外来機能の確保を進めてまいりたい。

○小松座長

ほかに質問等がなければ、項目（6）についてはこれで終了とする。続いて、（7）具体的対応方針の再検証の要請について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

【説明】

○小松座長

では、ただいまの説明について質問等があればお願いします。

○早坂委員

資料7-2において、公立刈田総合病院に透析の充実という記載がありながら、回復期機能に重点を置くとされており、これは慢性期を否定するものではないと思うが、透析の患者は急性期においては導入であり、その後は維持透析になる。あくまでも外来で維持透析をしていくのが国としても望ましいかと思うが、終末期は入院が絶対に必要となる。その時に、回復期では患者を受入れられなく、慢性期の機能を持った病棟が必要になる。当院は扱っているが、仙南区域では、そうした入院を受けられる病床が少ない。現状、公立刈田総合病院に受け入れていただいたり或いは協力いただいている。隣の県になるが、相馬で透析導入すると、患者の行き場所がなくなるのでなるべく導入しないという話も聞いている。そうした現実があるので、回復期中心とはいえ、慢性期の病棟を無くすことがないようにしてほしい。

○事務局

透析については、独特の機能がある病床と認識している。資料では、回復期中心と表記しているが、いただいた御意見を踏まえ、内容を詰めていきたい。

○大橋委員

早坂委員から話があったとおり、透析には超急性から慢性まで幅広い患者がいる。例えば、透析の導入ではシャントを作るなど外科系の対応が必要となる。透析の充実という記載の主旨は、当院において維持透析をするだけではなく、透析の導入や様々な合併症に対応できるような医療体制を作っていきたいということである。

○伊藤特別管理者

当地域は、透析や腎臓が悪い患者の対応に大変苦勞していると認識している。私の専門が腎臓や高血圧ということもあり、是非、当地域においてトータルで腎臓をケアできる仕組みを作りたいと考えている。また、透析導入や腎不全の患者の合併症については、腎臓の専門的知識がないと対応が難しい部分もあるので、トータルでケアできるようにしていきたい。腎センターに近いこともできれば良いと考えている。透析の終末期の慢性期についても、皆様から御意見をいただきながら対応できるようにしたい。

○小松座長

そのほか、何かあるか。
伊藤特別管理者から何かあるか。

○伊藤特別管理者

病院の連携体制は、4月に赴任した際から重要であると思っている。県と東北大学において、連携を強化するために色々お考えいただき感謝申し上げる。

当地域は、急性期の病床数が過剰になると見込まれ、回復期や慢性期が今後重要になる。慢性期といっても、慢性期をずっとやるということではなく、当地域全体としての慢性期患者のケア体制を支援する仕組みを作っていきたいと考えている。もちろん、回復期に力を入れるが、高齢化社会に合わせて、地域全体として足りないところを当院が担い、急性期をみやぎ県南中核病院が担うことで連携をしながら進めていきたい。実際、当院は病床の削減を検討しており、当地域は病床数が多いことを踏まえながら、地域の医療機関やみやぎ県南中核病院と連携をとりながら地域医療に貢献したいと考えている。

○事務局

補足として、今後の人口動態や医療ニーズの変化が見えているなかで、310床のみやぎ県南中核病院と感染症を含め308床の公立刈田総合病院がこのままの機能を維持するよりも、今後を見据え対応を考えるべきであり、すなわち、仙南医療圏の医療需要をこの2病院を中核としながら持続的に医療提供体制を確保するという考えに基づいた前向きな取組として提案するものである。その検討に当たっては、例えば、医師確保の観点や具体的取組に対する補助金といったバックアップ体制もとりながら今後の動きを検討していくことになる。また、今回は、今後の取組の骨格となる部分の提示となり、病床の構成や規模はこれ

から詰めていくことになるが、当医療圏の今後の在り方を考える方向性として提示するものとして御理解をいただきたい。

○伊藤特別管理者

前向きと表現していただきありがたい。これを進めることで、この地域の医療の前向きな進化に貢献できると考えている。皆様方と力を合わせて頑張っていきたい。

○石井地域医療構想アドバイザー

私は、東北大学医学系研究科の研究科長補佐と教育研修関連病院連携担当を兼ねており、東北大学の関連病院のお手伝いをさせていただく立場でもある。両病院の連携強化に関しては、色々な診療科があり、在り方が議論となってくるが、東北大学としては、両病院に関連する診療科長21教授全員に個別に説明し、概ねこの方向性について御協力をいただいているところである。当然、病院長や医学系研究科長も協力したいと考えており、オール東北大で取り組みたいと考えている。是非、地域の皆様の御協力と御指導をいただきたいと考えているのでよろしく願います。

○小松座長

ほかに質問等がなければ、項目（7）についてはこれで終了とする。
そのほか、何かあるか。

○高山委員

今回の台風災害で、特に角田・丸森で医療機能が落ち、仙南地区の医療機関に大変ご迷惑をおかけした。みやぎ県南中核病院からは、ベッドが満床であるとのファックスをいただいたが、現状どうなっているか教えてほしい。

○内藤委員

丸森病院で入院が休止になり、仙南中央病院でも一階まで水に浸かり40人ほどの患者を圏域内の他の医療機関で受け入れた。先週あたりは病床運用がかなり厳しく、入院患者を受け入れられないというのが一時あった。今は少しずつ御理解いただき、転院等ができており、だいぶ解消してきた。おそらく、公立刈田総合病院でも同じような状況かと思う。地域全体の問題として、入院患者には転院等の御協力をいただきながら、丸森病院や仙南中央病院などが元に戻るまでは頑張っていかななくてはならないと考えている。

○小松座長

地域医療構想アドバイザーの藤森先生から何かあるか。

○藤森地域医療構想アドバイザー

今後人口が毎年1.5%ずつ減る中で、2035年以降がピークということで非常に厳しい医療体制が続くが、この二つの病院の連携強化は重要と思っている。是非お手伝いさせていただくので今後ともよろしく願います。

○小松座長

そのほか、事務局から何かあるか。

○事務局

本日の会議資料及び議事録については、後日県のホームページに掲載する予定なので、了承願う。

○小松座長

皆様の協力で無事調整会議を終了することができた。司会進行を事務局に返す。

4. 閉 会

○司会

以上をもって、令和元年度宮城県地域医療構想調整会議（仙南区域）を終了する。